

デンタルダイヤモンド／2013. 9月号

○実践歯科ライブラリー：最新の技法を応用した暫間固定 ～材料の選択から術式まで～

(鈴木司郎 倉嶋敏明 柴田恭典)

＊いろいろな暫間固定法の利点・欠点、暫間固定の問題点、症例に応じた最新テクニックを紹介している。そして、口腔外科症例（外傷歯、自家歯牙移植）について、症例を交えて詳述しています。また、矯正における暫間固定（空隙の管理）の意義と方法について症例を示して提示しています。ぜひ、一読をお勧めする内容です。

○ORINSHO.COM：画像診断により義歯作成をシステム化する“ニシムラメソッド”（西村政仁）

＊咬合平面は、カンベル平面あるいはH I P平面を基準に決定されていますが、その方法で作製された義歯では症例によっては良い結果が得られませんでした。そこで、多数の患者さんのセファロ分析から得られた“咬合圧平面”（A点とPNSを結ぶ直線で、上顎歯列から脳頭蓋内に垂直的圧力を加える仮想平面）を基準に義歯を作製するニシムラメソッドに基づいた義歯作製法について、詳しく説明しています。非常に面白く興味深い内容です。

歯界展望／2013. 9月号

○咬合面材料としてのジルコニア—ジルコニアは対合歯を磨耗させるのか？—

(長崎大学 尾立哲郎 平塚輔 澤瀬隆)

＊近年ではCAD/CAM技術の向上によりジルコニアの歯冠修復物も使用されている。しかし硬すぎることに伴う危険から対合歯の磨耗についての懸念が生じている。エナメル質のVickers硬度が400HVであるのに対しジルコニアは1200HV以上もある。しかし硬さそのものより、表面粗さの影響が強いそうだ。そこで研磨が問題になる。この研究では口腔内で、ダイヤモンドペーストを用いて研磨したジルコニアの表面は、グレースした場とほぼ同様な表面性状なるとのことである。

○Wave One：最近のNiTi Single file systemを安全に使用するために（東京都開業 安部修）

＊いくら柔軟性と耐久性にすぐれたM-wire合金を使っているといっても、治療手技が簡素化すればするほど、手技の難易度は高くなると思われる。また使用ファイルの本数が減少すればするほど治療における危険性は高まると考え、適切な症例選択が必要になる。特に我々GPがWave Oneを使用するときにはやはり中間ファイルによって、事前拡大を行うことがより有効になる。

ザ・クインテッセンス／2013. 9月号

○特集3. 歯科が未来に輝くために—シンデレラからヘルスケア舞台の主演へ—（林 美加子）

＊美しく才能溢れるシンデレラが不遇な生活を送っていた！つまり、歯科医療の重要性は理解されていても、実際には医療費削減の筆頭対象になっています。そこで、以下のことを提案されています。出生児に社会保険番号を与え、2～3歳時に歯科医院に登録。18歳まで歯科医療を無料で提供し、リスクに応じた定期検診を義務づける。19歳になると新しい健康保険制度を適用し、個人のリスクに応じたメンテナンスを低額で実施し、補綴処置などは料金を高く設定する。さらに、口腔保健を達成できた患者の数に応じた加算料を与えるというものです。「予防中心」の保険制度への変換がなされて始めてヘルスケア舞台へ立てるのです。

○パーシャルデンチャーを基本とした欠損補綴の新しい戦略3パーシャルデンチャーの新たな展開—インプラントとのコラボレーションからデジタル化まで—

(馬場一美 福西美弥 田中晋平 森澤絵里)

＊遊離端やすれ違い咬合の義歯に苦労されている先生も多いと思います。少数のインプラントにより義歯の動きを制御できれば新たな展開となります。パーシャルデンチャー（RPD）におけるインプラントの使い方は、オーバーデンチャーとして（IOD）、そしてRPDに組み込む（IA-RPD）方法があります。インプラントの埋入本数は、義歯の動きを生理的な範囲内に制御するための最小本数を選択し、磁性・ボールアタッチメントを使用します。また、既存のインプラントを利用することもできます。インプラントの治療費と外科的侵襲を軽減するとともに、支持・把持・維持の制御が容易になり義歯の単純化が計れるというメリットがあります。荷重プロトコールなどエビデンスが不足していますが、症例によっては奥の一手となるかもしれません。

日本歯科評論／2013. 9月号

○＜特集＞ MFT で治療効果アップ —小児，歯周病，高齢者……広がるMFTの可能性

(大野薫英 大野由希爾 他)

＊MFT（口腔筋機能療法）をご存知ですか。もともとは歯科矯正治療で応用が広がっていましたが、小児や歯周治療、高齢者に対しても応用され始めています。悪習癖があるといくら治療をしても後戻りなど十分な結果を得ることができません。どのように日々の臨床に取り入れるか、参考にしてははいかがでしょうか。

○医療安全トピックス 18. 歯科治療がきっかけで亡くなる患者さんがいます（松浦信幸 一戸達也）

＊ショッキングなタイトルですが、事実なんです。年間5～10例程度の死亡例が発生すると推測されます。こういった悲劇を繰り返さないためにも是非一読をお勧めします。緊急事態は突然起こります。そのために常に準備を怠らないようにしましょう。そして県歯救急蘇生班の講習会にも出席して下さることを希望します。